

なぜなに やまもり 山や森についてもっと知ろう!

木を使うことが森を育てる?

人の手で植えられた木は、そのまま放置してしまうと木が混みあい、太陽の光が入らず、元気がなくなってしまう。そのため、手入れの一環として木を間引く(間伐)必要があります。間伐は伐った木を使うことでより進むようになります。

木を使うことで、定期的に森の手入れが行われるようになるのです。



山の木が混み合う
=>手入れが必要!

※森に太陽の光が入り、木々が元気になる。
※洪水や土砂災害を防ぐことができる。

間伐した木の使い道



木を使うことで生活が豊かになり、森の手入れも行われ、森が元気になります。

健全な森は、山地災害を防止し、私たちの生活を守ります。

生活の中に「木」を取り入れてみませんか。

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、手入れの遅れた森林を整備しています。

もりしあ人

— 森があるしあわせを伝えたい —

おしま かなこ
小嶋 可那子 さん



山形市出身。主婦ライター。結婚後新庄市に移り、子育てをしながら畑仕事もこなし地域を盛り上げるための活動も行っている。10歳、9歳、6歳の女の子と、3歳の双子の男の子を育てる5児の母。やまがた緑県民会議委員。

10人の大家族です

「みんなのあそびば」を主催されている小嶋可那子さん。山形市生まれで、現在は新庄市に、ご主人、ご主人のご両親とおばあちゃん、そして5人のお子さんとお住まいです。

— 新庄市に住んでみていかがでしたか? —

雪が多い!! (笑) でも、知らない土地での生活は発見が多く楽しいです。主人の家は風習を大切にしている家で、四季の料理や風習を伝えてもらって、四季の移り変わりや旬というものを肌で感じるようになりました。

自分の責任で自由に遊ぶ

— みんなのあそびば? —

昨年くらいから企画を立ち上げ、仲間と一緒にやっています。「自分の責任で自由に遊ぶ」という、都会のプレパークのような遊び場が欲しかったのです。自然の中の広い場所で、遊具やおもちゃを用意せず、子どもが自分で自由に考えて遊びをつくったり、自分で危険を学んだりする場所で、大人は見守るだけ。薪を割って火おこしをして土器でご飯を炊



自宅前の杉林でお子さんたちと

いたりもするので危険なこともありますが、昔の人は薪を割ったり、暖炉に火があったり、そういう中で危険を学びながら普通に暮らしていたはず。山道の歩き方もそうです。デコボコ道をすつと歩いてきた昔の人って、傾斜の道を歩いたり足を踏み外したりしながら、いろんな危険に対処することを自然に覚えることができたのだと思います。そういったことを自然に身につけられる場が欲しかったのです。

まずは知ること

— お子さんと山に行かれることは? —

山にはよく行きます。パパが山菜採り、じいちゃんがきのこ採りに行くので。特にあてもなく散歩に行ったりもします。子どもたちは散歩が大好きなんです。同じ所

を歩いていても四季によって毎回風景が違います。大きくなったら溪流釣りもいいですね。子どもたちには山のことを知って欲しいと思っています。貴重な古い木とか生えているかもしれないのに、知らないから気にも留めない。知っているだけでオツと目を留めることもできるし、そこから興味を持つこともできます。教えようとしても覚えにくい、楽しいことがないと子どもは覚えませんか。そのとっかかりだけは作りたいと思っています。

— 美しい自然を未来につなぐために大事なこと —

山や自然のことを知ることだと思います。今の親世代が自然との接点をあまり持っていません。大



エコロジーガーデン (新庄市) にて



火をおこして土器で料理

人自身が知らないから自然の中で遊べないのです。知ってからだ、何とかしなくちゃいけないと思ってしまう。そういう意味で体験は大事。小さいころから山や自然の中に入っていくことで、山や自然は楽しい、きれいだということを知り、それを守るための大事さを理解していきます。「何も無いのが自然」ではなく、山は人の手が入ることで守られているということを、山に興味を持たない人たちにも知って欲しいです。